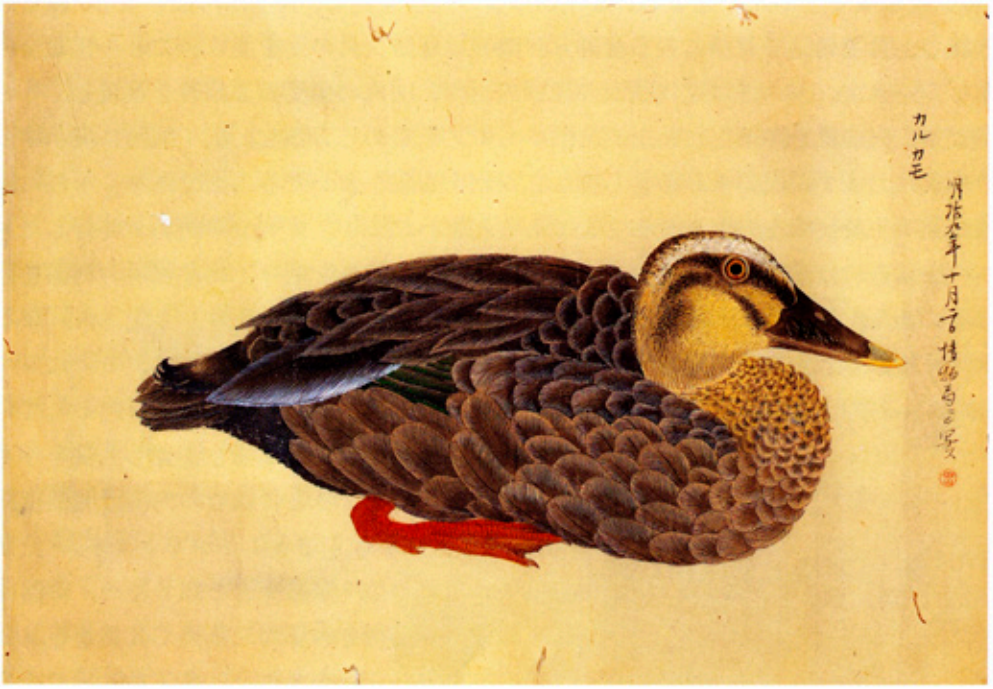
吹田市立博物館

博物館だより

NO. 5

SUITA CITY MUSEUM

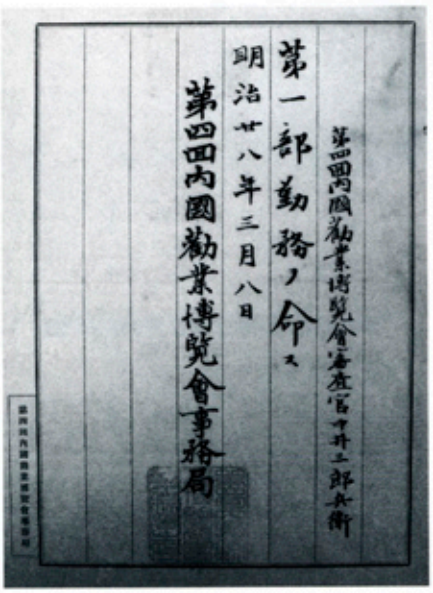


博物館禽譜（東京国立博物館所蔵）

内国勧業博覧会 －その変遷と意義－

平成７年度企画展「博覧会の風景」（４月29日～５月28日）は、近代日本のあゆみと博覧会の関わりを考えるというテーマで企画しました。実際に展示に携わっていく過程で、博覧会というものがその時代時代に規定されながら変容していくものであり、それぞれの開催意義を持つものであると理解しました。なかでも内国勧業博覧会の変遷とその意義は、非常に大きな興味を抱かせるものでした。1873年（明治６）のウィーン万国博覧会に公式参加した明治新政府は、博覧会が産業の振興や技術革新に与える影響の大きさを認識し、国内での大規模な博覧会を計画しました。明治時代に東京・京都・大阪で都合５回開催された内国博は、日本の近代化と大きく関わっていたといえるでしょう。

内国博開催の直接の契機となったのは、大久保利通による博覧会開催の建議書であり、「万物を遺類なく一場間に蒐（しゅう）集し、素性物は質の良否を調し、人工は巧拙を査し、識者之れを評論し、百工相見て互ひに自ら奮励し、商売は販路交易の途を開く」ことを博覧会の本旨としています。大久保は近代国家の建設のため、国内の殖産興業政策を重視し、その第一歩として内国博を開催しました。全国からモノを集めて分類し、広く国民に展示することの意義は、まず国民にモノの善し悪しを判別する眼を養わせることであり、それによって諸産業の生産技術を向上させることであると思われます。博覧会事務局が発行した見物人への注意書には「内国勧業博覧会の本旨たる工芸の進歩を助け、物産貿易の利源を開かしむるにあり。徒（いたづら）に戯玩の場を設けて遊覧の具となすにあらざるなり」と記され、単なる見世物（みせもの）見物気分の入場者に対して、展示物をよく観察させることによって、モノに対する知識と峻別する眼を養わせることを目的としています。ゆえにそれぞれの出品物を審査し、賞を与えることが重要でした。さらに政府の内国博開催意図は、「出品者心得」からも知ることができます。「此博覧会は後日諸業の益々繁盛せんと謀るため、御国内に産する種々の品物を一場間に集めて其美悪を見分け物産の位を定むるものなれは、農工共其術日頃の鍛（たん）練（れん）を示し他人に負ぬ様精々骨折で誉をあらはすへし」と記されているように、やはり国民の認識を高め、良いモノをより多く生産させること、すなわち国内の殖産興業を発展させることが意図されています。ではなぜ政府はここまで博覧会の開催意図を徹底させたのでしょうか。第一回内国博が開かれた明治10年（1877）には、庶民にとって博覧会といえばま

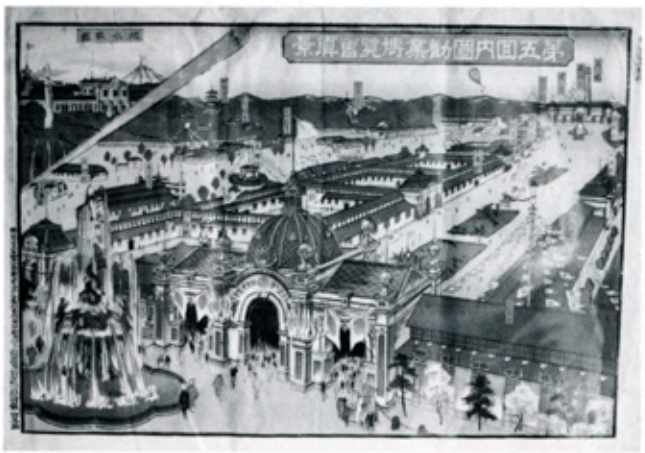

第四回内国勧業博覧会審査官中谷作次郎兵衛
第一部勤務ノ命ス
明治廿八年三月八日
第四回内国勧業博覧会事務局

内国博審査官任命書（中谷作次氏所蔵）

内国博出品を明記した引札(寺下 勍氏所蔵)

だまだ江戸時代の見世物といった認識しかなく、政府のねらいである殖産興業政策に直接結び付くものではなかったと推測できます。そのことは「出品者心得」にただ人目をひくだけの珍品奇物の出品が禁止されていることからも窺えます。その意味で第1回内国博の効力は主催した新政府にとっても未知数であり、博覧会の開催意図を国民に宣伝することに力を注いだのだと思われます。このような開催意図は第2回第3回と回を重ねるごとに定着し、出品者数も飛躍的に増えていきました。ちなみに出品者数は第1回は約1万6千人、第2回は3万人、第3回は7万7千人という記録が残っています。もちろん入場者数も45万、82万、102万、とうなぎ登りに増加します。観覧者の意識も政府の意図する方向に傾き、内国博や共進会に出品し、賞をとることが名誉であり大きな宣伝効果をもたらすことが認識されてきます。企業や商店は積極的に博覧会に製品を出品し、商品の宣伝に利用していきました。このように内国博は政府の意図した殖産興業政策に大きく寄与してきたといえます。

明治28年(1895)京都で開かれた第4回内国博は、平安遷都(せんと)1100年の記念事業の目玉として計画され、京都の活性化に一役買いました。その8年後、大坂で開催された第5回内国博は、不平等条約の改正やアジアにおける勢力拡大という時代背景にも影響され、万国博覧会にしようという動きもあったとされています。当時東京会議所の会頭であった渋沢栄一は、第5回内国博を評して「其名ハ内国勧業博覧会ナリト雖(いえ)トモ、内地雑居実行セラレ、且ツ東洋ノ局面一変シタル後ニ於ケル初度ノ博覧会ナレハ、外人ノ注目ヲ惹クコト従来開設セル勧業博覧会ト同一視ス可ラス」としています。実際第5回内国博には英・米・独など18か国が出品し、諸外国の注目の高さを垣間見ることができます。この明治期における最大の博覧会は、イルミネーションの点灯や遊戯施設の充実など、殖産興業一色であった以前の内国博とは異なり、新たな博覧会像を訪れた観客にイメージさせたことでしょう。


第五回内国博真景(寺下 勍氏所蔵)

平成７年度特別展

「水辺の文化の再発見 ―鴨にみる人と自然―」

平成７年10月21日（土）～11月23日（祝）

吹田市域及びその周辺部には、かつて、釈迦ケ池、八丁池、淀川・神崎川流域の低湿地帯といった水辺が存在しました。水辺には、鴨、雁等が多く飛来し、豊かな恵みをもたらしてくれました。

江戸時代の寛政(かんせい)11年(1799)に刊行された『日本山海名産図会』には、「鳧(かも)は摂州大坂近辺に捕るもの甚だ美味なり」「北中島を上品とす」と記され、さらに無双返しといわれる鴨猟法の説明では、「是摂州嶋下郡鳥飼にて鳧(かも)を捕る法なり」とあります。このことからも、北中島(現在の大阪市東淀川区と淀川区の一部)から嶋下郡鳥飼(現在摂津市鳥飼)といった吹田市周辺部は江戸時代、良質の鴨猟地帯であったことがうかがえます。

鴨は水鳥で夜行性のため、昼間は安全な池や湖沼で休息し、夕方になると餌である落ち穂や水面の雑草の種子を求めて湿田などの低湿地帯へと移動し、朝再び戻ってきます。淀川・神崎川流域の低湿地帯は格好の餌場であったのでしょう。

天保年代物売集(和歌山県立図書館所蔵)

鴨猟は、こうした餌場と休息地との移動と、その際、高く飛行せず、峰の鞍部を通過するという鴨の習性を利用しながら、地形、天候などの自然環境に適合した種々の猟法が発展してきました。

従来、水辺は水害に悩まされ、湿田地帯として、非能率的な遅れた農業といったマイナスイメージを持たれてきましたが、一方では、水鳥という豊かな恵みをもたらしてくれる側面を持っていたのです。先人たちは鴨を含めた自然環境を熟知することによって、鴨が渡来する冬場の生業のひとこまとして、猟を営み、上手に自然とつきあい、独自の水辺の文化を作り上げてきました。このような鴨と人との関わりの文化は古くて多様です。縄文時代の貝塚からは、鴨の骨がたくさん出土し、鴨を捕獲していたことがわかります。また、鷹を用いて鳥類や小動物

大日本物産図会（ケンショク食資料室所蔵）

を捕獲する鷹狩りでも鴨は猟の対象とされました。鷹狩りは権力者の遊技として、古くから盛んに行われました。江戸時代には、さらに身辺に猟を楽しむために、大名たちは、大規模な庭園内に鴨場という人工の池を作り、囮（おとり）の鴨を放って野生の鴨を引き寄せて鷹狩りを楽しみました。

江戸中期以降盛んに描かれた鳥類図譜の多くは、大名たちがこうして自然と親しみ、鳥への強い関心を抱いていたことと当時隆盛してきた博物学への興味から制作されました。

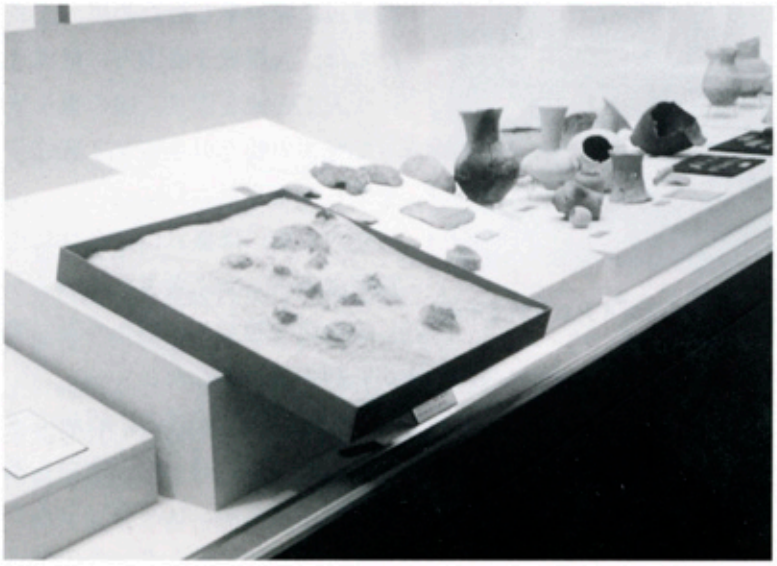
また、食文化の面では、獣肉を忌避してきた日本人は特に魚鳥料理を重視し、正規の儀式料理にも積極的に用いるなど豊富な内容を持っていました。特に鳥では、平安期から室町期までは、雉子が珍重され、単に鳥といえば、雉子を指す程でしたが、江戸期になると鶴にその座を奪われます。しかし、いずれの時代においても、出土数の最も多い鳥の骨は雁・鴨の類で、実際には雁・鴨が最も多く食されていたようです。

江戸時代になって、ようやく庶民層においても、食文化が開花すると鴨料理は広く愛好され、料理書にも多く登場するようになります。「鴨が葱（ねぎ）を背負（しょう）ってくる」といった鴨にまつわる語も、こうした庶民の生活感覚の中から使われ始めました。

この展示では、このような鴨と人の関わりの歴史と文化を通じて、従来不毛なマイナスのイメージを抱かれていた水辺の持つ文化を見直していただく機会になればと考えております。

鼠草子（東京国立博物館所蔵）

地震と博物館の展示



地震直後の当館第１展示室(1月17日午前8時)

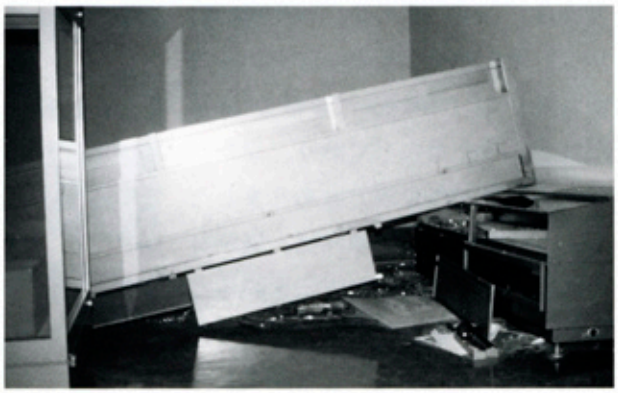
平成７年１月17日未明に発生した阪神淡路大震災は、5,500人以上の尊い人命を奪い現代都市を直撃し破壊した大地震として、災害史上永遠に語り継がれるべき大災害となりました。本来、災害から資料を守る役割を担っている博物館・資料館も、震度７を記録をした大地震に遭遇しては、決して被害ゼロではありませんでした。新聞紙上でも、阪神地域の博物館の建物や展示資料・収蔵資料の甚大な被害が大きく報道されています。

吹田市立博物館では、震度５と推測される縦揺れを主体とした振動を受け、建物外周の継ぎ目を中心とした細かいクラックが発生、また、盛土工法で整地されていた東南側の広場が数cm沈下しました。館内では、展示室で安定の悪い土器や民俗資料が転倒したり、傾斜台の資料が滑り落ちました。一般収蔵庫では、棚から落下した４点の資料が破損しましたが、それ以外の資料の損壊はなく、展示ケースや照明・ビデオ機器などの設備も被害はありませんでした。非常停止した昇降機も午前中には復旧し、館は１日も休館することなく運用でき、今日に至っています。

本博物館では被災直後から直ちに復旧のための補修工事が行われ、資料が転落した一般収蔵庫では、転落防止用の金具の取り付けが行われました。また、近隣の博物館が連携をとり、損壊の激しい館から被害の少なかった館へ資料を避難させ、当館にも多くの資料が運び込まれました。

また、２月に入ると、最も被害の激しかった阪神間の博物館の調査を実施しました。そこで目に飛び込んできた情景は、転倒した展示ケースや縦横に移動したケース、ロビーチェアーに覆い被さって倒壊した大型パネル、また収蔵庫では鋼製フレームをねじ曲げて倒壊した書庫や収納ラックなど、凄まじいものでありました。

このような情景は、関東大震災で被災した博物館の記憶があるといえども、戦後多数の博物館が建設されてゆくなかでも、おそらく予想もしなかったことでありました。そこで当館での被害体験や、大きな被害に見舞われた阪神地域の博物館の実態から、地震に安全な展示とはなにかを考えてみました。



地震によって倒壊した展示ケース(神戸市内)

展示ケース内で転倒した土器(西宮市内)

資料が箱や緩衝材で保護されることなく、無防備の状態に置かれるのは展示室です。従って、展示ケース自体が倒壊すると、その中の資料の破損は免れず、この点が最も懸念されるところです。しかし、震度7の激しい揺れにもかかわらず、展示ケースが転倒したのは僅かで、多くは倒れることはありませんでした。その理由は博物館用の展示ケースはフレームが頑丈で、重量があり安定していて、使用ガラスも厚く、相当激しい振動を受けても転倒・破損することのないように製作されているからです。

しかしケースの倒壊は免れても、激しく揺さぶられた展示資料は、転倒や落下などでケース内で破損していました。その破損の状態をよく観察すると、同じ震度7の揺れでもケースの中で縦横に跳ね飛ばされて破損した資料がある反面、ケースで大きく移動することなく、その場で転倒していただけの資料もありました。

ケースの受けた揺れ方は、館の立地や建築構造、方向、階高などの複雑な要素が絡んでいると思われますが、どうやら展示を演出するステージや演示具にも差があるらしく、最近多用されているアクリル樹脂板を加工した展示台は軽くて摩擦が少なく、振動を受けた際には、資料や展示台自体を大きく移動させ、結果的に資料に大きな打撃を与えることとなったようです。また、展示台として使用されたガラス板は、破損によって展示資料そのものを傷めることになります。

かつての博物館は、ケースの床に、クロス張りの低い展示台を置き、平面的な資料陳列をしていましたが、最近の博物館は展示台に新素材を使い、そして展示壁面の高い位置にも資料を配列し、資料のすぐ直近に重量のあるビデオ機器やパネル・サインを配置するな

ど複雑になる一方です。博物館の展示は、平面的かつ単調な資料の配列から脱して、立体的かつ多様な「洒落(しゃれ)た展示」へと指向しており、また、それが観覧者の要求でもありました。しかし、このような傾向は、展示具の素材の選択や固定の方法を誤ると、激しい地震に襲われた時には、資料の損壊をより大きくする危険性をもっていたのです。

地震後取り付けられた転落防止金具(当館一般収蔵庫)

突き詰めて考えると、地震への無警戒がこのような展示手法を許していたのですが、その背景には、展示区画に精一杯並べなければならない狭い展示面積、収蔵庫ではラックの架載能力の限界まで収納された収蔵資料など、わが国のほとんどの博物館が抱えている構造的な欠陥があり、今回の地震でそれが一気に露呈したように思われます。

地震発生から9カ月が経過し、多くの博物館は被害から立ち直って展示活動を再開していますが、貴重な資料の損失を無駄にしないためにも、地震で学んだことを拠り所にして地震に強い博物館の展示を目指す必要があるのではないでしょうか。最後に、多くの被災博物館職員が、市民の救援活動にあたりつつ、館の復旧に当たられていた姿をみることができ、本当に頭が下がりました。がんばってください阪神地域の博物館の皆さん。

講演会のご案内

●11月3日(祝) 午後2時
テーマ 「日本における野鳥と肉食文化
—野鳥をさかんに食べた日本人—」
講 師 伝承料理研究家 奥村彪生氏

●11月19日(日) 午後2時
テーマ 「水辺の生活 —人と鴨—」
講 師 国立民族学博物館助教授 近藤雅樹氏

各講演会とも会場は吹田市立博物館2階講座室。受講は無料で先着順(120名)です。

吹田市立博物館だより 第5号
平成7年10月5日発行

吹田市立博物館
〒564 吹田市岸部北4丁目10番1号
TEL. (06)338-5500 FAX. (06)338-9886

■交通案内

JR岸辺駅下車徒歩20分
阪急吹田駅から桃山台駅前ゆき、山田樫切山ゆきバス「佐井寺北」下車徒歩10分
千里中央ゆき、阪急山田ゆき、摂津ふれあいの里ゆきバス「岸部」下車徒歩10分
阪急南千里駅からJR吹田ゆきバス②・③系統「佐井寺北」下車徒歩10分